

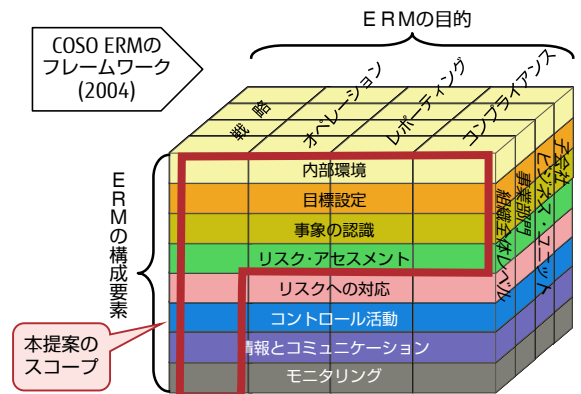
定量的ERMモデル構築支援

リターンを得るためには、リスクを回避するだけでなく、とるべきリスクを選択して新たな事業機会とすることが求められます

ERM (Enterprise Risk Management)とは、企業などの組織体が行う意思決定や業務遂行などにおけるすべてのリスクに関して、組織全体の視点から統合的・包括的・戦略的に把握・評価・最適化し、価値最大化を図るリスクマネジメントのアプローチです。

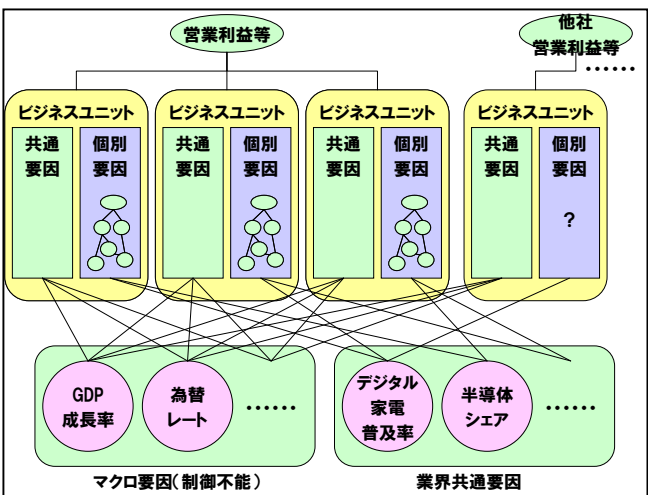
一般的にはCOSO ERMフレームワークが知られていますが、内部統制の観点からダウンサイドのリスクを管理するものであるため、リターンの源泉となるリスクを積極的にとって全体最適や企業価値向上に結びつける視点は不十分です。

営業利益や売上、キャッシュフローなどの価値指標の値を継続的に向上させることは、企業価値の向上につながります。経営環境がますます厳しくなる昨今、リターンを得るためには、リスクを回避するだけでなく、とるべきリスクを選択して新たな事業機会とすることが求められます。



全体最適や企業価値向上の観点からは、企業財務の観点からのアプローチが必要

本ご提案では、企業全体のリスクを財務数値の観点で把握する定量的ERMモデルを構築し、全体最適や企業価値向上をご支援いたします。報告の正確性やコンプライアンスなど、いわゆる内部統制に関する内容は実施済みを前提とします。



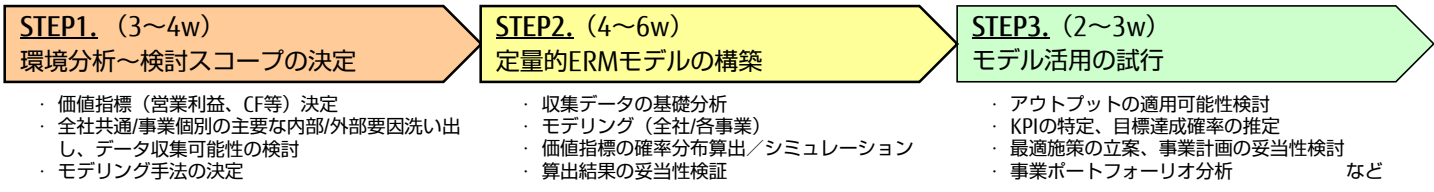
定量的ERMモデルのイメージ (電機業界の例)

定量的ERMモデルは、企業財務の観点からビジネス構造を定量的にモデル化するものです。価値指標を左右するリスク要因を、各ビジネスユニットの個別要因、全社共通要因、業界共通要因、制御不能なマクロ要因などに分けて捉えることで、企業価値向上に必要な様々な評価を可能にします。

貴社ビジネスをモデル化する際に、事業のリスクに見合った資本コストを考慮するなどコーポレート・ファイナンスの理論を活用すること、また、ベイジアン・ネットワークを応用して富士通総研が独自に開発した事業価値評価の技法であるBusiness Modeling Engineeringを活用することが富士通総研のサービスの特徴です。

コーポレートガバナンスの強化が求められる昨今、上場企業は投資家への説明責任をより強く求められます。定量的ERMモデルはアカウンタビリティを高める取り組みとしても貢献を期待できます。

本コンサルティングの進め方

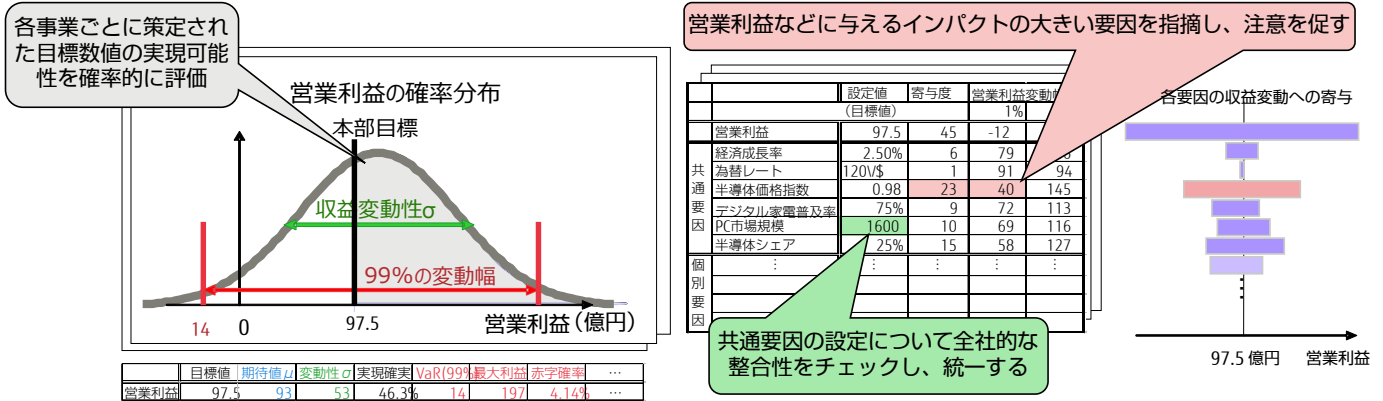


定量的ERMモデルの活用イメージ

構築した定量的なモデルを用いることで、営業利益や売上、キャッシュフローなどの価値指標の値とその振れ幅がわかります。また、影響を与える重要な要因もわかります。これらによって企業財務上のリスクの効率的なコントロールができます。全社だけでなくビジネスユニット単位でも定量的に可視化できるので、事業の推進や撤退の検討に活用できます。

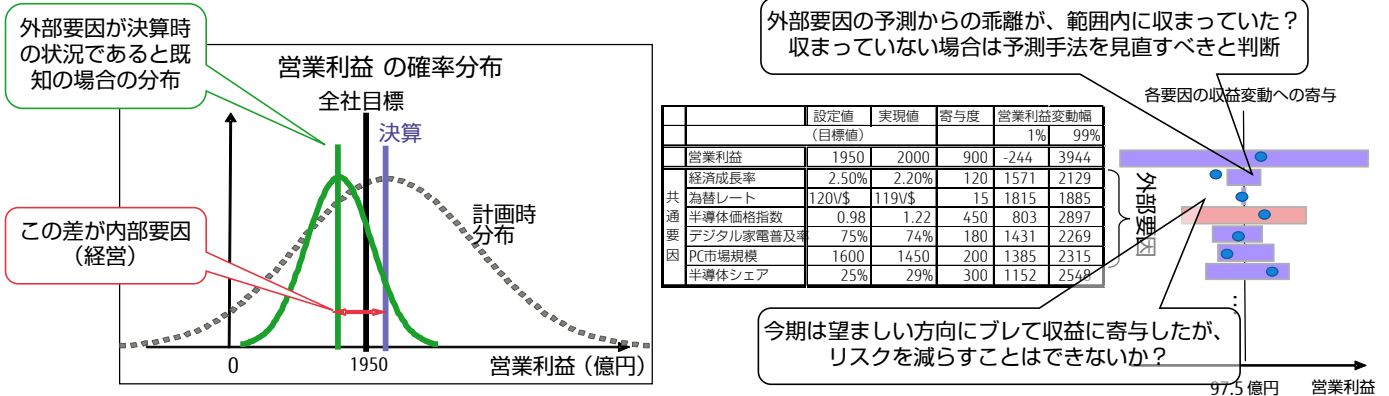
1. 社内の比較

各事業部門が作成した事業計画に対する実現可能性検証およびフィードバックを実施します。



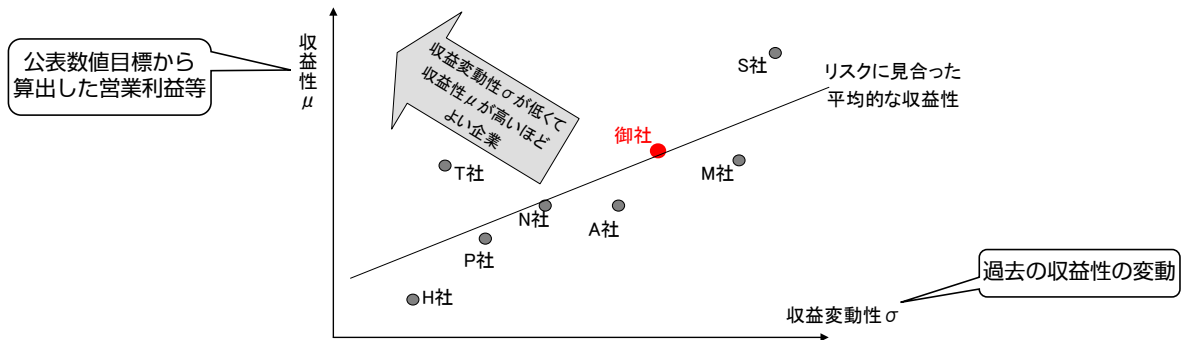
2. 決算の評価

決算値と目標値の違いの原因となった要因を、定量的に可視化します。



3. 他社との比較

目標収益が事業リスクに見合っているかという観点で同業他社と比較します。



このカタログに掲載されている内容については、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

2008年10月

お問い合わせ先

株式会社富士通総研

コンサルティング本部 ビジネスサイエンスグループ

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目16番1号 ニューピア竹芝サウスタワー TEL:03-5401-8394